



WITH FLOWERS ～暮らしに花を～

市には、11か所の公共花壇があり、フラワーサポーター(ボランティア)の皆さんと一緒に、季節の花の植込みや整備を行っています。年間約30回の活動を通じて、花の育成や花壇の手入れ、花材の再利用方法を学んでいます。現在、約100人の皆さんが取り組んでいます。

フラワーサポーターの登録は
随時受け付けています。



市HP

東松山駅西口花壇リニューアル!

どの角度からも魅力的できれいな花壇を楽しんでいただけるよう花壇を造成しました。花壇の中心に背の高いものを集め、立体的に見えるよう造作物や植物を配置しています。今回植込みに携わったフラワーサポーターの皆さんは「東松山駅西口が仕事やお出かけの人、東松山に帰ってきた皆さんの癒やしになればと思っています」と語ってくれました。市内を散策する際は、ぜひお立ち寄りください!

問 地域支援課 花いっぱい推進室 ☎21-1435 ☎22-7799



いきいきハッピー NPO法人サン・フレッシュ・メイト



サン・フレッシュ・メイトの皆さん

今回は、手書きのサンフレッシュメイト“なかまニュース”を発行している市内砂田町のNPO法人サン・フレッシュ・メイトを紹介します。

NPO法人サン・フレッシュ・メイト(以下サンフレ)は、障害福祉サービスの多機能型事業所として、主に知的障害者の就労支援や生活介護などを行っており、障害のある利用者と分け隔てなく同じ立場にいたいとの思いから利用者を“なかま”と呼んでいます。サンフレで働く“なかま”たちの主な作業内容は、袋詰めや箱折りなど会社からの請負作業が中心となります。最近では、市のふるさと納税返礼品や廃木を利用した木工品の作成も新たに加わり、“なかま”たちは、新しい仕事にやりがいを感じ

ながら、仕事でも笑顔絶やさず取り組んでいます。

毎週発行している“なかまニュース”は「人と人とのつながりや仲間の成長など日々の生活の中での出来事を温もりのある手書きの書面で地域の皆さんに伝えたい」という遠藤美枝子代表の思いから、活動を始めた当初から手書きにこだわって、発行しているものです。

遠藤代表は「地域の皆さんに支えられて20年、身近なつながりを大切に育んでいます。“なかま”の笑顔を見ると年齢を忘れてしまい、毎日“なかま”から元気をもらい、幸せな人生になっています」と語っていました。“なかま”たちにカメラを向けるとみんな笑顔でピースサインをしてくれるのがとても印象的でした。

サンフレの皆さん、これからも仲良く笑顔で日々の生活を過ごしてください。



遠藤代表(中央)とスタッフ

絵子猫さんが描く 高坂彫刻プロムナード

花.Takata × ECO-MO



高田博厚作「女のトルソ」

問 生涯学習課文化芸術推進室 ☎21-1431 ☎23-2239

まちかどスケッチ いちごのせたよもぎ草もち作り

まちかどスケッチ

いちごのせたよもぎ草もち作り



3月14日(木)、市農林公園でいちごのせたよもぎ草もち作りを行いました。

使用するいちごは作業の合間に園内で摘み取りを行い、草もちの中に入れて、上に乗せたりと、それぞれアレンジを加えながら作っていました。

終了後に、早速試食をした参加者からは「すごくおいしい〜!」と歓声がありました。



この広報紙にあなたが写っていましたら広報広聴課へご連絡ください。写真を差し上げます。

ミニ情報	人口と世帯(4月1日現在)	交通事故発生件数(3月中)	市内の空間放射線量測定結果
	人口: 90,862人 (-14) 男: 45,621人 (-27) 女: 45,241人 (+13) 出生(3月中): 34人 (-5) 死亡(3月中): 88人 (-22) 転入等(3月中): 710人 (+430) 転出等(3月中): 670人 (+331) 世帯数: 43,080世帯 (+55) *()は前月比	発生件数: 368件※ 人身事故: 34件(死者: 1人、けが人: 41人) 物損事故: 334件 ※東松山警察署管内(東松山市、滑川町、川島町、吉見町)の件数	市内34か所で空間放射線量を定期的に測定しています。 4月の測定においても、基準値を下回っています。 測定結果の詳細は、市HPに掲載しています。 問 環境政策課 ☎63-5006 ☎23-7700
		火災と救急件数(3月中) 火災件数: 5件 救急件数: 440件(交通: 14件、急病: 288件、その他: 138件) 搬送人員: 346人	



埼玉県こども動物自然公園 動物ZOO鑑

～園長おすすめ アマミトゲネズミ～

7年越しの初展示

奄美大島を訪れたことがありますか? 2021年に世界自然遺産に認定されたこの島で一番有名な野生動物といえば「アマミノクロウサギ」ですよね。青い海と深い原生林が広がる森には、ほかに多様な生き物が暮らしています。

一見ただのネズミに見える「アマミトゲネズミ」もこの島の固有種です。1950年代以降、森林伐採や人が持ち込んだ猫やマングースの野生化によって生息数が激減してしまいました。その後、環境省による捕獲調査やマングースの駆除などで少しずつ回復していきました。そして2017年からは国内の数か所の動物園で野生個体を飼育し、保全に向けたデータをとりましょうという計画が始まりました。げっ歯類の飼育実績が多い当園がその動物園の1つとして選ばれ、バックヤードでの飼育がスタートしたのです。静かな環境の中で、餌の量や種類、温度管理や日照時間などを探りながら飼育が始まりました。毎年、奄美大島の子どもたちから大好きな餌のドングリ(スダジイの実)も送ってもらっています。その熱い思いや努力が実り、約2年後に繁殖が成功しました。

その後も順調に子が生まれ、他の動物園でも安定した飼育管理と繁殖が見られているので、「この4月には、皆さんにその姿を見てもらいましょう!」と関わった動物園が同時に一般公開をすることになりました。

展示場所はげっ歯類がメインの「エコハウチュー」。他のネズミの仲間と見比べながら、奄美大島の深い森に暮らす彼らに想いを馳せてください。

くれぐれも「なんだ、ネズミか」と言って通り過ぎないように!

※6月号は植物ZOO鑑です。



目が大きくて体は握りこぶしほどの大きさ



トゲ状の毛が体全体に



ペアで展示をはじめました